



2024年5月27日

各位

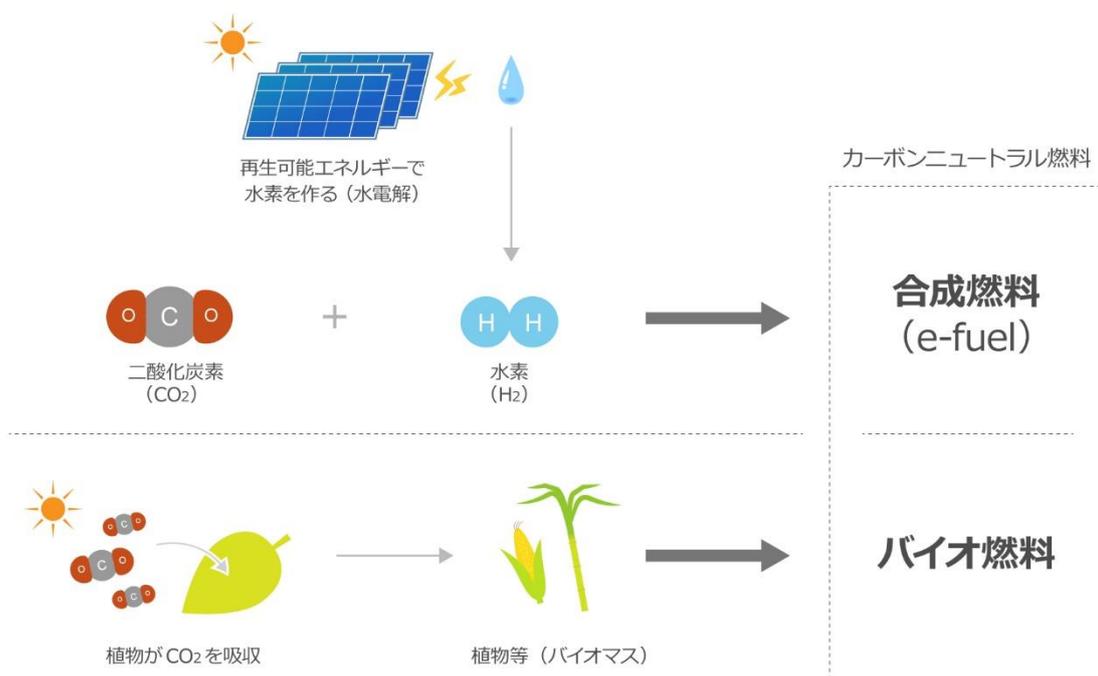
会社名 出光興産株式会社
代表者名 代表取締役社長 木藤 俊一
(コード番号:5019 東証プライム市場)
問合せ先 経理財務部 IR室長 茂木 大輔
(TEL: 03 - 3213 - 9307)

出光興産、ENEOS、トヨタ自動車、三菱重工業、
自動車向けカーボンニュートラル燃料の導入と普及に向けた検討を開始

出光興産株式会社(以下、出光興産)、ENEOS株式会社(以下、ENEOS)、トヨタ自動車株式会社(以下、トヨタ)および三菱重工業株式会社(以下、三菱重工)は、カーボンニュートラル(以下、CN)社会の実現を目指して、自動車の脱炭素化に貢献する「CN燃料」の導入・普及に向けた検討を開始しました。日本国内において2030年頃のCN燃料の導入を目指して、供給、技術、需要のそれぞれで主要な役割を果たす4社が共同で検討を進めてまいります。

<CN燃料とは>

製品ライフサイクル全体においてCO₂排出量を抑えられる燃料のこと。水素とCO₂を原料とする合成燃料(e-fuel)や、光合成でCO₂を吸収する植物等を原料にしたバイオ燃料などの総称。特に液体のCN燃料は、エネルギーを「ためる」「はこぶ」点において優位性があり、輸送可能なエネルギー源として適している。



カーボンニュートラル燃料の種類と製造過程

<4 社共同で取り組む内容>

- ① 日本の自動車市場における CN 燃料の導入シナリオやロードマップ、市場導入に必要となりうる諸制度について、議論・検討する。
- ② 日本におけるエネルギーセキュリティ等の観点から、製造の実現可能性を調査する。

出光興産は 2050 年ビジョン「変革をカタチに」のもと、[中期経営計画](#)で表明した3つの事業領域の1つとして、多様で地球環境に優しい「一步先のエネルギー」の社会実装に取り組んでいます。その一環として、国内外の様々な企業と連携しながら、合成燃料やバイオ燃料といった CN 燃料の早期導入・普及を目指しています。

ENEOSは、グループの長期ビジョンにおいて「エネルギー・素材の安定供給」と「CN 社会の実現」との両立への挑戦を掲げ、水素や再生可能エネルギーの活用を推進し、合成燃料などの CN 燃料の事業開発を進めるなど、温室効果ガス排出量を削減するためのさまざまな取り組みを行っています。

トヨタは CN に向けて、マルチパスウェイを軸に、電動車の普及だけでなく、エンジン搭載車両における CO₂ 排出量削減にも取り組んでいます。2007 年には、ブラジルでフレックス燃料車(バイオ燃料とガソリンの混合燃料で走る自動車)を導入。今後も、保有車を含むエンジン搭載車両の CO₂ 削減に取り組むとともに、CN 燃料の普及に貢献するエンジンの開発も検討してまいります。

三菱重工グループは 2040 年までに CN を達成する「[MISSION NET ZERO](#)」を宣言し、CO₂ エコシステム、水素エコシステムの構築などに取り組んでいます。CO₂ 削減に貢献できる三菱重工グループの製品・技術・サービス、世界中のパートナーとの新しいソリューション・イノベーションにより CN 社会の実現に貢献していきます。

CN 社会の実現に向けた CN 燃料の普及には、産業を超えた連携・仲間づくりが不可欠です。その第一歩として、出光興産、ENEOS、トヨタ、三菱重工は連携して、CN 燃料の導入・普及に向けた検討を進めてまいります。

以上